

CAVOK 欧州航海日誌 2012年7月16日-31日

8月1日 CAVOK 松崎義邦氏からのメール

「クロアチアに入り半月が過ぎました。お陰様で地中海気候の快晴のお天気にも恵まれ順調に航海しています。

アドリア海はギリシャ、ローマ時代からの歴史、そして中世から海洋貿易の要衝として栄え、今も中世の街並みを残している街が沢山あり、セーリングと歴史探訪の観光を楽しんでいます。

シベニックではクルカ川をさかのぼりクルカ国立公園の幾重にも連なる滝を見てきました。

国立公園のコルナティ諸島では真っ青な海の色と石灰岩で出来た白い砂漠の丘陵のような島と澄んだ青い空とのコントラストが見事な光景を描いていました。

その中の島々の間を抜けながらのセーリング、又いくつかの入り江で錨泊してグランブルーの海で泳いだり、海を見ながら一杯傾ける至福の時間も味わいました。

そしてあまりにマリーナや錨泊地が多いので何処に泊まるか選択に迷うほどです。時間も十分にありますので午前中にセーリングを楽しんで午後マリーナないし錨泊地に停泊するパターンを楽しんでいます。

1991年に始まった独立戦争の痛手を感じる事なく、素晴らしい観光地として生き生きしているクロアチアの自然と歴史をもう半月楽しみたいと思っています。 Dugi 島 Sali にて 松崎義邦 」

以下 航海日誌

7月16日(月)Korcula 晴れ後快晴、強風。

朝起きると、風が強く吹いているのでマリーナの隣の錨泊地の様子を後学のため丘の上に見に行く。10隻ぐらいの船が錨泊していたが三方山に囲まれた静かな入り江で安全な錨泊地だ。

午前中旧市街地を歩く。聖マルコ大聖堂にはティントレットの宗教画が展示されていた。鐘楼に上るとコルチュラの街と海が 360度のパノラマで広がり圧巻であった。又コルチュラ生まれとされているマルコ・ポーロの生家の建物も見る。

お昼艇に戻り昼食を昨日の残りのマツタケ風味のご飯、ひじき、イワシのかば焼きで頂く。

午後バイクを借りて島を探索しようと思ったがバイクは出払ってなく、自転車を借りる。

今度は錨泊地まで下りて行って調べる。入り江は海水浴場になっていて素晴らし景観だ。明日の風の具合によってはここで錨泊をしたいと思う。

今晚は 21:00からのモレシュカと云う伝統的な踊りを予約しておいた。この踊りはイスラム教徒とキリスト教徒の戦いの踊りで、もともと地中海の沿岸諸国で存在した踊りだが現在はコルチュラのものだけが残っている。踊りが始まる前にマリーナから少し上がったところのホテルのレストランに食事に行く。

プロシュートのメロン添え、トマトスープ、スカンピのグリル、イカのグリルをコルチュラ産白ワインで食べる。素材の新鮮さとグリルが上手で美味しかった。夕食後モレシュカを見に行くが民族衣装の踊りでイスラム、サラセンとの戦いの歴史が残っているようだ。総勢 40名ぐらいの戦いの踊りで夜空の中で剣の音が響いて伝統を感じる踊りであった。

夜外では風はびゅーびゅー吹いているが艇は殆ど揺れない。ぐっすり寝る。

7月17日(火)Korcula 快晴、強風

「天気晴朗なれど風強し」で、ここに暫く滞在することにする。この風はタラモンタナと云う北風でこの地方の特徴の強風である。強風注意報も出ているので我々はマリーナに居るが元気な艇は果敢に出港していく。

お昼は近くの島に水上タクシーで渡り海水浴とランチを食べる。コルチュラは長細い島で東西に40KMほどの長さのある島だ。このマリーナは東側にあるが西側にある Vela Luke のマリーナを見に行きたく島から帰った後バスで行ってみる。

西に開けている港なので風と波が入ってくる。見ていると次から次に艇が入ってくるが岸壁に槍付けが難しく各艇苦労している。そのうち岸壁の係留場もなくなりブイに舫うようになった。

艇に戻ってから昨日注文してあった懸案のインターネットキーを買いに行く。クロアチアはスペイン、イタリアと違い大変簡単な手続きで街の電気屋さんで手に入れる事が出来た。これでどこでも天気情報が入るので安心だ。

夕食は日本からの最後のご飯を煮野菜、ひじき、ベーコンジャガイモで頂く。ここのところ日中の暑さとは別に夕方から涼しくなり心地よい

7月18日(水) Korcula~Uvala Luka (Korcula) (1NM) 快晴 強風

このタラモンタナの風は今日で終わりの予報だ。

マリーナの隣に Uvala Luka と云う湾がありパイロットブックに拠ればオールラウンドの風に強いシェルターと書いてあるので自転車で湾を前日見に行ったがこの強風でも湖のように静かな湾だ。又停泊している艇も 10 隻以上いるので今日はマリーナから移動することにした。このマリーナの係留料は高く初日予約料を入れて 130€する。コルチュラの街も見たので日中の風が少し治まるのを待って 11:00 に移動する。

途中ガソリンスタンドでガソリンを入れて湾にアンカーを打つ。底は泥でアンカーの効きは良い。お昼はいつも航海中に食べるサンドウィッチ、オリーブとビールをアンカーリングしている艇の上で頂く。

午後は泳いだり、読書したり、お昼寝したりでのんびりした時間を過ごす。午後から錨泊に来る船も多くアンカーの打つ場所を探して動き回っていた。夕方に Port Authority の艇が錨泊料を徴収に来た。アンカーリングで料金を払うのは初めてだ。料金は 150 クーネ(約 2000 円)だった。この錨泊地は海水浴場やレストランもあり夜も賑やかだ。遠くの音楽を聴きながら夕食は野菜たっぷりのカレーライスを塩が効いたオリーブで頂く。

20 時過ぎには風も治まり安心してぐっすりと眠りについた。

7月19日(木) Uvala Luka(Korcula)~Vis (42NM) 快晴

今日は風が治まったので次の目的地 Vis に向けて 07:10 アンカーを揚げる。無風の中機走で本島と Korcula との間の海峡を抜ける。沢山のヨット、モーターボート、観光船が走っている。

12 時過ぎにやっと南東から風が吹き出しクローズホールドのセーリングを楽しめた。16 時に Vis の湾内に入り固定ブイに舫いを取る。早速ゴムボートを降ろして街の探索に出かける。

この島は石器時代から住民が居て、アドリア海の中心に位置する関係もありギリシャの植民地でもあった。彼ら海の民の植民地は自然の良港があるところが殆どだ。その後ローマ帝国、ヴェネチアと支

配者は変遷した歴史ある島だ。島の博物館に行ったが石器時代からの遺跡が展示してあった。

又第二次世界大戦ではイギリス軍がパルチザンに物資供与の基地にしていたそう。今はクロアチアの内乱の跡形もなく平和な時代の観光の街になっている。いつも通り泳ぐとまさにグランブルーの中に吸い込まれるようで気持ちが良い。今日もシャワーはデッキで浴びさっぱりする。

楽しみの夕食は、モルタデラソーセージとハムとレタスの前菜、小海老のガーリックと唐辛子のオリーブオイル煮、パセリとトマトのオムレツ、ペペロンチーノをクロアチア産辛口の白ワインで頂く。

7月20日(金) Vis~Otok Terolim~ Hvar (20NM) 快晴

09:10 にブイから舫いを離し、今日は Pakleni 諸島の島めぐりをしながら Hvar ないしパクレニ諸島の中の Palmizana を目指す。途中アンカーを打って昼食と海水浴を Terolim 島です。この島はナチュラルリストの島で上陸するのに躊躇したがテンダーで上陸してみた。ヌーデスト達が老いも若きも関係なくおおらかに全身日光浴を楽しんでいた。

錨地も島々の間や入り江に沢山あり、星空を静かな錨泊地と思ったが2日錨泊したのでHvarの港に入ることにした。

16:00 にアンカーを揚げてパクレニ諸島にあるパルミザーナのマリーナを覗いたりして 18:00 にフヴァルの港に入る。ここは一部岸壁に槍付けするところと、ブイを取って後ろに岸壁に舫うところ、そしてアンカーするところと3か所ある。パイロットブックに拠ると夏のオンシーズンは満杯で係留するのは難しいと書いてあったが一つ空いているブイを見つけブイ舫いをする。岸壁の近くは浅いので結構係留は難しく港のスタッフに手伝ってもらう。

隣に居るモーターボートの若者が気の良い連中で岸壁側の舫いをテンダーで取ってくれた。

お礼に日本からのお土産用の手拭いをお礼に渡したら逆にワインを2本プレゼントしてくれた。この気持ちのやり取りがうれしい。

ブイの係留は電気、水が無いがその分係留料も安く300クーネ(約4000円)だ。

シャワーは街の有料シャワーに行く。22日から24日まで前線の接近でお天気が悪くなる予報なのでここに暫く係留することにする。

ここは夏のレジャー基地として人気のあるところで市場もあり、ギリシャ、ローマ時代を経てヴェネツィア時代は重要なアドリア海の港であった。当時の造船所跡や16世紀に建てられた7つのアーチのある建物にはヴェネツィアのシンボルの翼のあるライオンが彫られていた。又世界自然遺産のスターリ・グラード平原もあり観光も楽しみたいと思う。

艇の前は賑やかな海岸通りで行き交う人々が沢山いる。今日の夕食はナスのオリーブ炒め、モッツァレラチーズとトマト、鶏肉のささみのグリルを賑やかな海岸通りをバックに頂く。

夜の賑わいは2時過ぎまで続いていた。

7月21日(土) Hvar 快晴

明日から天気が崩れる予報なので天気の良いうちにとフヴァルの港を見下ろす丘の上に立っている城塞に登る。坂道はきついけど建物の間に流れる風が心地よい。城塞からはパクレニ諸島、ヴィス島、フヴァルの街並み、港がパノラマに広がり海の色が背景で素晴らしい景色であった。



(フヴァルの要塞からの展望)

市場で芝エビとスイカを買って艇の冷蔵庫に入れてから、お昼のバスでスターリ・グラードに行く。途中のバスから古代ギリシャ人が築いたと云う、石垣で区分された耕地が広がっているスターリ・グラード平原の一部が見る事が出来た。特にここではそれ以外見る物もなく、港の前のテラスで行き交う船を見ながらビールで喉を潤す。天然の良港でフヴァルに比べると静かな観光客の少ないところだった。

帰ってから艇を係留してある直ぐ脇にある海水浴場で泳ぐ。

久しぶりに茹で芝エビで一杯、生ハムサラダ、トマトとパセリ入りオムレツ、スパゲティ・マルタ(ポモドーロにソテーしたナスが入る)を頂いた。

7月22日(日)Hvar 快晴後晴れ

朝フランシスコ会修道院にある博物館に行くが日曜日休館日であった。

港の周りにはレストラン、お土産屋さんが並びそして幾隻もの観光船が出発準備をして観光客を乗るのを待っている。正に夏のバカンスだ。

ここフヴァルはクロアチア一番のリゾートアイランドでヨーロッパ中の人たちが来るそう。賑やかなわけだ。出入りのヨットも多くチャーターヨットが主流だが乗っている人たちはヨーロッパの自国に艇を持っていてチャーターヨットでアドリア海を楽しんでいる人も多いようだ。

隣の艇はデンマーク人でアドリア海の夏を楽しみに来ている。風の強いデンマークはヨットを楽しめると宣伝していた。シーズンなので係留地はひしめき合っ一つのブイを2艇で共有している。艇と艇は何かフェンダーで間隔を保っている状態だ。

今日はゆっくり艇で休むことにして久しぶりに本をゆっくり読んだり、昼寝したり、泳いだりして、ゆったりした一日を過ごす。

夕食はクロアチア料理を食べに行く予定だったが風が強くなったのでテnderで岸に渡るのが億劫になり艇で食べることにした。メロンの代わりに胡瓜の上に生ハム、鶏ささみグリル、ジャガイモのガーリック炒めを隣のクロアチア艇から頂いた地元赤ワインで頂く。

7月23日(月)Hvar 曇り

昨日博物館を見る事が出来なかったので今朝行く。壁の大きさ一面に掛かれた長さ8mある「最後の晩餐」は圧巻だった。

その後ベネディクト会修道院に行き、リュウゼツランの葉から取り出した繊維で編んだレースを見る。このリュウゼツランの花は100年に一回開花して枯れるといわれているが(100年に一回の開花なのでセンチュリーフラワーと云われている。実際は30~50年ぐらいたそうだが)咲いているのを艇の前の公園で見る事が出来た。

ラベンダーとともに、レース編みはフヴァル島を代表するお土産になっている。又この修道院にはギリシャ、ローマ時代の交易が盛んだったころの海底から発掘された遺物が展示されていて当時の繁栄がしのばれる。

艇の電気はバッテリーからだがブイ係留で陸電が取れない。ソーラーパネルで充電しているが太陽の出ている日中には電気冷蔵庫は使えるが夜はだめだ。PCの充電のためのインバーターはバッテリーのボルテージが下がり使えない。

エンジンを回して電源を確保することもできるが、空回しは無駄なのでPCを持ってお茶を飲みながらお店で充電する。

今晚は外食することにしてクロアチアの特徴ある料理を注文する。タコのサラダ、ダルマチア地方の生ハム、魚とトマト味のシチューを頼むが観光客相手の店なのかタコはグニャグニャ、生ハムは固く塩が強かった。魚とトマトのシチューはトマト味が美味しかった。

今日は前線の尻尾の通過で大気が不安定で積乱雲が出来突風が吹いてきた。艇に戻ってからブイに係留できないでアンカーを打っている艇が走錨してブイの艇に流されてきた近くの艇のみんなで衝突を防ぎマリーナのボートの助けを借り大事には至らなかった。

7月24日(火)Hvar~Spilt(22NM) 曇り時々雨

まだ天気の回復が完全ではないが今日は南風の予報だ。次に向かう予定のスプリットは北方向なのでこの南風に乗って今日出港することにする。朝方は天気の動向を見て薄日が差してきた 11:20 にブイの舳を解く。

パクレニ諸島との海峡に出るとヨットが360度の範囲に50隻以上帆走しているのが見えた。

クォーター気味の風で7ノットの速度で気持ち良く走る。5日ぶりの帆走なので悦子も喜ぶ。

クロアチアに入り大陸が近くなったせいか積乱雲の発生が多くなってきている。いつも気にしているが薄曇りの天気がにわかになり雨と共に風も強くなってきたので、即セールをおろし機走に変える。幸い一時的でこの雲も去り風も治まりホッとしてスプリットの ACI SPRIT マリーナ 16:00 に入る。

夏のハイシーズンで係留場所が満杯を心配していたが比較的大きなマリーナでバースも大分空いていた。我々の入港した後次々にヨットが入ってきた。入港してから雨も止んだので昨日までブイ泊めで水が使えなかったので艇の水洗いをする。

スプリットはローマ時代からの街並みとローマ皇帝ディオクラティアヌス宮殿は世界遺産に指定されている。早速海岸沿いに歩いて行く。宮殿は高い城壁で囲まれ4つの門から中に入れるようになっている。その中に宮殿、街があり石灰岩、大理石でできた建物がびっしり並び、今はお店になっていて大層な賑わいになっている。宮殿は広大な広さで同じ広さの地下室もある。

ディオクラティアヌス帝は、紀元3世紀ローマ帝国が危機にさらされている時期紀元 284 年に皇帝になりローマの統治を正帝、副帝 4 人作り 4 分割してこの危機を乗り越えた皇帝だ。当時のローマ帝国の力の強さが分かる建造物であった。

大聖堂に中世に加えられた鐘楼がありその上からの城門内の街並み、アドリア海の景色は、雨上りの晴れた空の下美しく見えた。

帰りは港の前のレストランで昨日のクロアチア料理の名誉を取り戻すため再度チャレンジする。私は昨日と同じタコのサラダ、それと手長エビのリゾット、悦子はグリルド野菜とビーフストロガノフを食べる。昨日と味付けが違い美味しく値段も安かった。

クロアチアでは昨年クロアチアに来た人の話では 1 クーネ 20 円のレートだったそうだ。それが今 1 クーネ 13 円なのでユーロ含めて円高の恩恵を受けている。

7月25日(水) Split ~ Trogir (15NM) 晴れ

午前中に昨日閉まっていた見られなかった大聖堂にマリーナからの水上タクシーで行く。

この大聖堂はディオクラティアヌス帝自身の霊廟として建てられたがキリスト教を弾圧した帝の死後、皮肉にもキリスト教の教会になり時代の変遷とともに色々と増改築された。13世紀に作られたロマネスク様式のオーク材の扉の彫刻は傑作である。

水上タクシーで艇に戻り 11:20 に舳いを解きトロギールに向かう。昨日と違って変わった天気になり青空だが内陸の方には積雲が青空に真っ白な色で鮮やかなコントラストを醸し出している。

湖水のような滑らかな海面を南西の風を受けながら島々を見ながらの帆走は至福だった。

14:30 にトロギールの世界遺産の旧市街地の向かいにある ACI マリーナに舳いを取る。

お疲れの一杯をやって一寝入りしてから旧市街地に橋を渡り行ってみる。

ギリシャ時代から様々な時代に渡る歴史的建造物がひしめいている旧市街地は見ごたえがあった。聖ロヴロ大聖堂は 13 世紀に建築が開始され 17 世紀に完成されたという様々な時代の建築様式が組み込まれている。又鐘楼に登ってみると街と海が一望で素晴らしい展望であった。

ここもヴェネツィアの支配下にあった時代もあり 15 世紀にヴェネツィアによってつくられたカメルレンゴの岩も登ってみる。夕日に照らされた海峡が綺麗に見えた。

旧市街地の中に床屋を見つけ 5 月以来床屋に行っていなかったので散髪をしてもらう。頭を洗ってもらって 90 クーネ (1200 円) 安かった。世界遺産の旧市街地での散髪は記念になった。

夕食はダルマチア産ハムと胡瓜、ニンジン、トマト、レタスのサラダ、鶏のささみのエスニックソースかけのソテーを旧市街の明かりを見ながら頂く。

7月26日(木) Trogir ~ Primosten (20NM) 快晴

次の寄港予定地は Sibenik だが今日の風の予報は午後から北西の風が強くなる予報で向かい風になるのでシベニックの手前約 10NM にある小さな村のプリモシュテンに行くことにする。その手前にも二つほど大きなマリーナがあるがオランダ艇が、プリモシュテンが景色もきれいでお奨めと教えてくれたので今日の目的地とした。又ここは直ぐ一杯になるので 13 時前に着くようにした方が良いことも教えてくれた。

この艇はクロアチアに艇を置いて夏を過ごしているそうでこの辺りをよく知っている。夫婦二人で奥さんがナビゲーターと云うことで彼女がシベニクからクルカ国立公園の行くためのルートも教えてくれた。パイロットブックを頼りで航海しているのでこのような情報は大変参考になる。

08:10 に舳いを解き、海岸沿いに島々の間を抜けながら走る。残念ながら向かい風で機走するが南行きの逆方向の艇は追い風に乗り気持ちよさそうだ。

風も段々強くなってきたが 12:00 にプリモシュテンのマリーナのブイに舳う。トルコからの脅威から逃れた人々が岩礁に築いた街で赤い屋根の古い集落、高台の教会が青い海に浮かび絵葉書のような光景だった。

20 個ぐらいあるブイの、まだ 4, 5 個のブイは空いていたが、15 時過ぎにはブイは一杯になり後からの艇は他に行くかアンカーリングをしていた。ブイを取るとき悦子が時計をひっかけて落としたので潜って探して時計らしきものを見つけたが水深が 8m あり耳抜きが出来ず何回かトライしたが回収できなかった。

バウでのブイから舳い取りは高さがあり難しい。舳ったブイの直ぐ前はこじんまりしたきれいな街並みでその前が海水浴場になっていて、のんびりした田舎のバカンス村の風情で美しい。

早く着いたがテンダーで陸にがることもなく、艇で久しぶりに読書とうたた寝を楽しむ。夕食は、サラダ、生ハム、スパゲティ・ポモドーロを赤ワインで頂く。

7 月 27 日(金)Primosten~Sibenik(12NM)快晴

朝食後再度昨日落とした時計を取りに潜ってみたが今日は見つからず諦めることにした。

09:30 にブイの舳いを解きシベニクに向かう。今日も北風の向かい風で 14, 5 ノットはあったが 12NM と短い距離なので機走で全行程を走る。追っ手で南に向かう艇のセーリングがきれいだった。島々の間を抜けクルカ川の河口にあるシベニクの旧市街地の前の岸壁に 11:40 に舳う。

ここも管理者がいていつもの槍付けだが固定されているバウの舳いをいつもの通り取ってくれた。親切な人で事務所は自分のバイク、街の説明をしてくれ何でも相談に乗ってくれとの事だったのでクロアチアに入り見つからなかったプロパンのガスボンベの交換をお願いしたら夕方に届けてくれた。

電気が無いが 350 クーネと世界遺産の聖ヤコブ大聖堂の半円形の屋根が直ぐそこに見える一等地の割には安い。

今日も早く着いたので昼食後は読書と昼寝を楽しむ。日中は大変暑く 16 時過ぎに出かけることにした。



(プリモシュテンの街並み)

中世の情緒溢れる旧市街地を歩いてから要塞に登り、明るい太陽に照らされて紺碧のアドリア海と沖合の島々の美しい景色を眺望する。その後世界文化遺産の聖ヤコブ大聖堂に行く。1431年から120年以上かけてつくられた大聖堂で途中ゴシック様式からルネサンス様式に変更され建物の下部はゴシック様式、上部はルネサンス様式になっている。レンガや木の支柱を使わず石材だけで建てられた石造建築である。

ライオンの扉、72名の市民の顔の彫刻の外部、中は石材建築らしい重厚感と下の列柱はゴシック様式、上部はルネサンス様式と区切られていた。素晴らしい建築物だ。夕方岸壁の前の通りはメイン通りで大勢の散歩、観光客が行き交っている。

夕食はその前で小エビのニンニクオイル煮、クロアチアソーセージ、ポテトサラダ、トマト、ピクルス、オリーブをクロアチア産白ワインで頂く。

7月28日(土)Sibenik～Skardin(7NM)快晴

シベニックの河口から更に7NM上流のスカルディンに向け09:20 舫いを解く。緩やかな流れの川をノンビリと左右にくねりながら機走で上流のスカルディン ACI マリーナに11:20に着く。

川辺の入り江に佇む湖畔にあるような静かな情緒あるマリーナだ。ここはクルカ国立公園への船での出入り口になり、これより上流は観光船のみになる。早速観光船の時間を調べて出かける。

幾重にも連なる滝が名所で、最初の大きな滝のあるスクラディンスキ・ブク迄観光船で行き、そこから徒歩で連なる滝を観光した。



(クルカ国立公園の滝)

最初の滝の滝つぼでは、直接滝に打たれることは出来ないが皆さん泳いでいる。私も徒歩で上流まで散策した後、暑かったので水に浸かる。

マリーナは夏休みなので家族ずれでヨット旅行をしているケースが多いが、小さな子供が着岸の時お手伝いをしているのが微笑ましい。

シャワーを浴びた後久しぶりの外食をする。悦子はリブステーキ、私はガーリックオイルソースの魚のグリルを食べたが、ビストロみたいなレストランだったがなかなか味付けが良くおいしかった。

7月29日(日) Skardin~Lavsa (Nacionalni Park Kornati) (33NM) 快晴

静かな湖畔のようなスカルディンの ACI マリーナを 06:50 出港する。

昨日遡航した川を下りシベニックの街並みを過ぎて 08:30 に河口に出る。良いお天気の代わり風がなく今日も全行程機走になる。暫くするとコルナティ国立公園の島々が広がりコルナティ島の北の端より島々の間に入る。島々が一つの陸地の様に見えるので海峡があるのか不安になるぐらい島が重なっている。その間をヨット、モーターボートが行き交っている。

今日はその中の Lavsa 島の入り江にブイ係留することにした。深い入り江で中には 12 個のブイがあったが既に 10 個は係留してあった。取ったブイにはこの入り江にあるたった一つのレストランの名前でリザーブと書いてあったので、11:40 にブイに舫った後早速テンドーを降ろしてレストランでお昼を注文して、リザーブブイの係留が OK か聞いたところ問題なしということで安心する。

魚のメニューをお願いしたらスズキとタイ(オラーダ)を持ってきてどちらにするかと云う事なのでオラーダを注文する。昨日も魚が美味しかったが今日も上手に焼けて塩とオリーブオイルの味付けで逸品だった。

最近午前中航海して午後停泊してゆっくりする計画をしている。午後泊地でゆっくりできて良い。

夕方テンドーで岩場に行き泳ぐ。熱くなった体が冷えて気持ち良い。ここは国立公園の入園料が必要で職員がボートで徴収に来る。入園料は 400 クーネ(約 5500 円)だった。高いが入り江には係留用のブイを設置してあったりしてボート、ヨットウエルカムなので良い方法だ。

艇での夕食は、和風ジャーマンポテト、ナスとフンギのパスタを頂く。

7月30日(月)Lavsa~Vruiji (7NM)快晴

今日はコルナティ国立公園の島々の間をセーリングすることにする。

コナルティ諸島だけで300の島が点在していて、そのうち89の島が国立公園に指定されている。

朝食後09:10にブイの舳を解き、Lavsa島の北側に隣接するPiskera島との狭い海峡を抜けアドリア海に出て南からの微風をつかみ湖面のような海上を久しぶりのセーリングでコルナティの島々を見ながら楽しむ。コルナティの島々は石灰岩の白い砂漠のような丘陵の島々で緑は殆ど無い。蒼の海と快晴の青空と、砂漠のよう白い島々のコントラストが妙に素晴らしい。



(コルティナ諸島)

11:30にコルナティ本島にあるブリュリエの入り江に入る。レストラン二軒とプチホテルが一軒ある可愛い入り江だ。ムアリング用のブイは7つしかなく満杯だった。ここはアンカーも打つことができるし、レストランの専用岸壁に着けることもできるが、丁度出発準備中の艇がいたので待って、出た後そのブイに舳う。

バウからブイに舳を取り取るとき高さがあるのでブイに舳を取りづらい。前回のプリモシュテンの失敗もあるので、最近スターンからブイに近づいてスターンの下のデッキでブイに舳を取ってバウに持って行っている方法を取っているが中々スムーズで具合が良い。

次々艇が入り江に入ってきてアンカーを打っている。ブイ舳いは走錨が無いので安心だ。艇でサンドウィッチのお昼を食べてゆっくりする。

泳いだ後テンドーで上陸してレストランでお茶を飲むが4、5軒のこじんまりした家があるだけのんびりした佇まいの集落で絵になる。

島のレストランに食事に行こうと思ったが三日連続レストランでの魚料理になるので艇でエビ入りイタリアンオムレツとナスの付け合せ、マカロニ入りサラダ、昨日の残りの和風ジャーマンポテトを白ワインで静かな艇の上で頂く。島々に沈んでいく夕陽がきれいだった。

7月31日(火)Vruije~Sali(12NM)快晴

クロアチアでの島ではクレジットカードは使えないケースが多く現金払いが多い。手持ちのクローネが少なくなってきたので、今日は Dugi 島の Sali の港のマリーナに入ることにした。

夜中は北風に変わり強く吹いていたが朝起きたらその風も治まり順風だ。

07:50 にブイの舳いを解き北東の風に乗りジブ、メインセールともに予報の強風に備えてリーフしてセーリングする。コルナティ本島を右(東)に見ながら島々の間を抜けながらの気持ち良いセーリングだ。風が強くても湖水のような水面で滑るように艇は走る。

コルナティ本島の北端の狭い海峡からクロアチア本土側に出る。海峡通過時だけセーリングでは無理なので機走するが後は島々の間を縫うように行くセーリングが楽しめた。

11:20 に Sali の港に入る。このマリーナは港の岸壁をそのまま使っている。ヨーロッパではこの形式も結構あるので、日本の漁港でもこの方法で使えるかと思う。

昼食をソーメンで取った後、いつも通りの午睡、そして泳ぐ。

午後遅くなるとヨットがどんどん入ってきてかなりバースが埋まる。クロアチアはチャータヨットが多く、ここもチャーター会社の Sun Sail と別の会社のチャータヨットがグループ船団でそれぞれ 10 隻位ずつ並んで係留していた。

夕食は生ハムとオニオン、トマトレタスのサラダ、エスニック風チキンを頂く。

(HYC 付記： 以下2枚の写真は撮影地不明)

